１章　正の数・負の数　＜数の大小＞

＜これらの知識を使った問題が問題ノートの p.４ $\boxed{3}$，p.５ $\boxed{2}$ にあります＞

１年　　組　　番　氏名

数の大小を表す「＜」または「＞」の記号を不等号といいます。

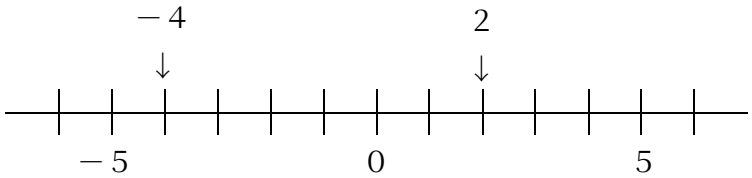
例　３　＜　５　　※大きい数の方に開くイメージ

正の数と負の数の大小を考えましょう。

例　次の数の大小を，不等号を使って表しなさい。
（１）－４，２（２）－３，－６（３）－1.6，－0.6

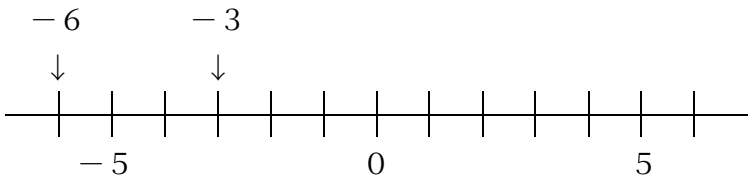
＜考え方＞　数直線を使う。　・・・数直線に数をかいたとき，右にある数の方が大きい。

（１）



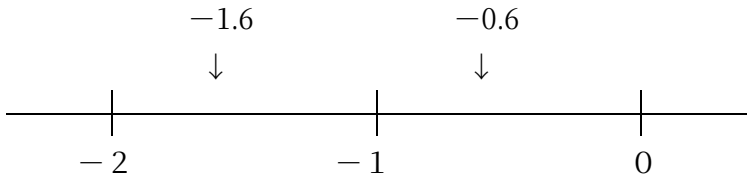
－４　＜　２

（２）



－３　＞　－６

（３）



－1.6　＜　－0.6

※答えをよく見ると・・・

－４　＜　２　・・・正の数と負の数では，正の数の方が大きくなる

－３　＞　－６　　３と６では６の方が大きい

－1.6　＞　－0.6　　1.6 と 0.6 では 1.6 の方が大きい

「－」（マイナス）がつくと大小が逆になる

・・・負の数同士の場合，数字部分（絶対値）が小さい方が大きくなる